女性を動かす
地域を動かす

全国「リビング新聞編集長」のミセスゴコロをつかんだ企画

仙台から鹿児島まで全国 56 エリアに広がる「リビング新聞」では、それぞれのエリアで“地元のミセスゴコロをつかむ”、さまざまな企画・イベントを展開している。情報発信だけではなく、リアルな生活者と繋がり、動かす企画に日夜、知恵を絞っている各エリアの編集長が、2013 年「読者が、地域が動いた」と実感した事例を紹介。「人を動かす」ヒントが満載だ。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

藤崎由紀子
編集長

集まった“リビング鶴”は2366羽 たくさんの祈りが込められた七夕飾り

創刊 30 周年を迎えた4月、仙台七夕飾りを読者と共に作るプロジェクトを始動。読者には、吹き流し用としてリビング新聞での鶴作りなどをお願いしました。紙面で呼びかけ約1カ月後、「仙台元気になあれ」などのメッセージが添えられたたくさんの鶴が届いたときには感謝、感激、涙。合計 2366 羽。吹き流しの予定数を上回った分は、千羽鶴風にして掲示することに。作ることで祈りが届く気がする。自分サイズで力になれる。そんな思いも、読者の行動につながったのかもしれません。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島　郡山

鈴木朱美
編集長

女性だけの華麗なるゴルフ大会 「リビングレディースカップ」

毎年 10 月に開催している県内唯一の女性だけのゴルフコンペ「リビングレディースカップ」。6回目の昨年は、過去最高となる 44 組 132 人の女性アマチュアゴルファーが県内各地から集結しました。華やかなファッションに身を包んだ参加者たちですが、いざスタートすると表情は一転。毎年ハイレベルの戦いが繰り広げられます。女性の笑顔とパワーは、福島を元気にする！　チーム対抗戦の本大会は、プレーを通じて参加者の〝団結〟〝絆〟がより強まるようです。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

和田美紀
編集長

栃木のおいしい野菜の魅力を 生産者が直接消費者へ発信！

毎年、「消費者と生産者の交流会キッチンスタジオ」をJA全農とちぎ主催、リビングが事務局となって開催。県産野菜重点5品目のトマト・ニラ・ナス・キュウリ・ネギの各専門農家の方から、野菜の安全性や選び方、食べ方などを直接教わります。また女性生産者が講師となり、県産野菜をたっぷり使った楽しい調理実習と昼食会も全員で。参加者からは「野菜料理のレパートリーが増えた」「生産者の愛情や苦労がわかった」と好評です。生産者の話が直接聞けて、さらに料理とお土産とで、毎回抽選になるほど人気です。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

島田文美子
東葛本部　編集長

ワクワクすることにアンテナを！ 感度の高いミセスが大集合

10 月 22 日、イベント「かしわくフェスタ」を開催しました。輝きたいミセスが“かしわでワクワク”できる内容にしようと、ビューティー、就職情報、物販の 12 ブースに加え、ワンコインカルチャー教室、ステージセミナーで構成。10 時～14 時 30 分で 来 場 者 は 523 人 に。入り口はベビーカーであふれ、地元主婦の雑貨販売はバーゲン会場のよう。30 分で売り切れる物販ブースも。ワクワクすることにアンテナを張るミセスパワー全開！　お祭りのような熱気に包まれました。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京副都心
東京西　東京南　東京東　東京リビング

和田直子
東京本部　編集長

“ワンコインで超ビューティー” 700人以上の主婦が「美」に反応！

リビング新聞と健康生活情報雑誌がコラボして、「美」と「健康」を応援する1日限定イベントを 6 月 10 日にリーガロイヤルホテル東京で開催。健康維持の意欲や「きれいになりたい気持ち」を引き出し、「もっときれいになれる」を見つけ、参加者が気持ちよくセルフイメージを高める機会を提供しました。エリカ・アンギャル、道端カレンのセミナーや体験コーナー・ブースゾーンなど、美に対する意識が高い主婦で一日中にぎわいました。好評のため今年 4 月も夜の部を拡大して開催予定！

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

石川香里
武蔵野本部　編集長

失敗したくない母の気持ちを 「習い事体験会」で受け止めた？

一昨年は「父子」にスポットをあてて拡大した親子イベントを、昨年は基本に忠実、「母子」をターゲットに。サッカースクールや音楽・知育玩具・ダンス等の習い事が一堂に体験できる「ならいごと体験会」を実施したところ、応募者は 725 人と大盛況 (大人 328 人・子供 397 人) で、夏休みの子供の宿題をやる「夏休みキッズワークショップ」には定員の2倍もの母子が来場しました。“子供の事は絶対失敗したくない！”という母が多いと聞きますが、この集客数が証明しているのでは…。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま中央

丸山実木
埼玉本部　編集長

ジャンボ卵を探して、商店街めぐり 店主が親子とおしゃべりを楽しみました

３月イースターの時期に合わせ「卵探し大会」を大宮駅東口の商店街と企画しました。10 店に動物の絵入りの大きな卵を設置し、地図で店を訪ね、10 個の絵をみつけるという仕掛けです。天ぷらの横にフクロウ、着物店のショーウインドウにアヒル、喫茶店のパフェの隣にコアラ。親子で路地裏まで探検気分。「ゆっくり商店街を見る機会になった」「行ったことのない店でおもしろかった」。店主も子どもや若い親と会話できる、ほのぼのイベントになりました。詳細 =http://r.living.jp/mrs/12eg

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

依田由利子
千葉本部　副編集長

読者のコーラス隊＆Yucca さん クリスマスキャロルのステージへ

大河ドラマ「龍馬伝」の挿入歌を歌う Yucca さんとクリスマスキャロルを歌おう！　Yucca さんのボイストレーニング&レッスンを受けて、一緒にステージにも立つという、このプレミアムなイベントに読者 50 人が参加してくれました。世代はばらばら、コーラス初心者も経験者も混ざって、３回のレッスンを見事クリア。ライブ当日は、予定になかった発声練習が全員そろって始まり、真面目で熱心な読者像を実感しました。もちろんステージは大成功。終わった後の皆さんの笑顔は最高でした。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

西脇英子
千葉本部　編集長

女は死んでも おしゃれがしたい

先ごろはやりの終活イベント。リビングの各エリアでもしばしば開催中。樹木葬や散骨、家族葬など新しい形のセレモニーやエンディングノートが人気を集めていますが、千葉のイベント「ハッピーｅｎＤＯ」のステージで行った「エンディングドレス(死に装束) のデモンストレーション」。「ふわりと美しいお姫様のようなドレスやベールをまとって、きれいな姿で最期のお別れをしたい！」という女心を捉えて、注目のひとつとなりました。やはり女は、死んでもおしゃれがしたい！

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美
多摩本部　編集長

地元企業の協力で実現した 「親子プラモデル教室」にパパが熱中

毎年恒例の夏休みイベント。昨年はゴルフ教室から工場見学まで、地元企業とコラボしたさまざまなジャンルの7つのイベントを企画し、191 人の親子が参加しました。中でも、ホビーメーカー㈱壽屋の協力で実現した「親子プラモデル教室」(20 組 40 人) は、ふだんのイベントではなかなか見られない父子での参加が９割。昔とった杵柄…とばかり張り切るパパの姿がとても新鮮でした。女性を動かすのが得意なリビング新聞ですが、企画次第で男性も動かせる！と実感しました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東　横浜南

今野直子
横浜本部　編集長

優れた目利きで即決！ ５千円超の参加費でも申し込み殺到

参加費が 5000 円を超えるイベントに、無料のイベントのごとく申し込みが殺到。2013 年秋に始めた「おいしい横浜めぐり」は、毎回レストランには献立のグレードアップを細かく要望し、見学施設には特別公開を、市には後援をお願いするなど念を入れ、記事では「食と四季と文化を楽しむ」のキャッチに「リビングだけ」のマークを付けたところ反応大。読者は値段で敬遠せず、記事を読み込み、目利きしていると実感。こちらも、今後も労を惜しまず“お・も・て・な・し”を心がけていきます！

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

林ひろ子
編集長

LIVING紙面と田園都市Webを連動 さらに大きな波紋を起こしています

「クイズ de チャレンジ！　田園都市検定」と題してこの秋、「田園都市 Web」にアップ。開発 60 周年を迎えた田園都市エリアを再発見しようの“検定”に2万 5000 PV に迫る数をゲットしました。 本社 WEB 事業部による東阪共通企画で一斉掲載したものですが、地域一番店のアイスケーキをプレゼントに、紙面＆Web 連動で、他にも増して大きな反響がとれたのが喜びです。2013 年からは読者の新しい組織化を狙って DENEN 美食倶楽部開始、8 回を数えるアート＆ライフMも健在です。

「くらし HOW マガジン」2014 年 1 月発行／©リビングくらし HOW 研究所　※無断転載を禁じます

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増渕直子
編集長

商店街の老舗店と初コラボ！ 秋のティータイム料理教室満員御礼

昔から「商都」といわれている町田。中心市街地には複数の商店街があり、以前から商店とイベントをやりたいと思っていたのが、この秋に実現しました。創業 140 年という老舗のお茶店の協力で、リビング料理教室「秋のお菓子と中国茶でティータイム」を開催。本格的ケーキが炊飯器で作れることプラス、本場・中国茶の入れ方を体験できるということで、申し込みも順調に。会場が老舗のティールームというのも受講者には魅力的だったようです。次回もぜひ！の声多数あり。

Shonan

湘南リビング新聞社　リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

川戸眞澄
編集長

地元藤沢に「週末よしもと」を招致 「産業フェスタ」大ホール2423人動員

5/25・5/26 開催「2013 ふじさわ産業フェスタ」で主催の同実行委員会（藤沢商工会議所内）から藤沢市民会館大ホールの集客を依頼され、「週末よしもと大笑い in ふじさわ」を 5/26 に開催。普段は都心でしか観られない吉本芸人のライブが地元で手ごろな料金（S席 3500 円、当日 4000 円）で楽しめるとあって、家族連れなどが来場（12:00 の部 952 人、15:00 の部 931 人）。5/25 に開催した「ふじさわ歌謡祭」（出場者 135 人によるカラオケ大会）観覧者 540 人と併せて、両日で 2423 人を動員しました。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理
編集部　編集長

地元で活躍のバンドマンが集結 「七夕フェスタ」大盛況！

7月に開催した「七夕フェスタ　リビングチャリティーコンサート」。交通安全キャンペーン一環のコンサートは昨年で2回目です。今回は地元で活躍する個性あふれるバンド6チームが競演しました。カントリー、フォーク、ハワイアン…。迫力の演奏に引き込まれ、会場を埋めた 400 人以上も“大合唱”。そんな観客に刺激され、バンドマンたちも大盛り上がり！静岡人は“参加することが大好き”、そして“大の音楽好き”が証明された熱いイベントでした。

Nagoya

名古屋リビング新聞社　リビング名古屋東
名古屋中央　南山の手　名北かすがい・こまき

中島幸子
編集部長

キレイセミナーとオリジナルランチ 満足度200%の「リビング淑女塾」

心も体もしなやかに、しとやかに―。リビング名古屋では創刊 15 周年を記念して、いつまでも輝いていたいという 40 ～ 50 代の主婦をメインターゲットにした「リビング淑女塾」を開講。「インナービューティー」をテーマにしたセミナーと、この日のためにシェフが腕をふるった「淑女ランチ」、キレイになれるおみやげ付きという豪華な内容に、参加者全員が「大満足」という驚きの結果が。限定 20 人という小規模なイベントながら、クライアントも大喜びのおいしいイベントとなりました。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

山本和子
副編集長

自然の中で田植え・稲刈りを体験 街中にはない時間を過ごせたと好評

昨年５月からはじまった滋賀リビング主催の「棚田プロジェクト」。京都や大阪のリビング読者も参加して、棚田の「田植え」「草刈り」「稲刈り」を行いました。参加者 10 組の半分以上は小さい子どもさんがいるファミリーで、ほとんどが「子ども達に自然を体感させたい」と奥様が申し込んでこられました。子ども達と泥んこになりながらの「田植え」、慣れない鎌を使っての「草刈り」「稲刈り」と、街中では体験できない時間を過ごせたと好評でした。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

山舗恵子
統括編集長

ペーパードライバーを卒業したい！ 応募殺到のドライバーズ教室

脱・ペーパードライバー！　昨年４回開催した「女性ドライバーズ教室」は、定員 30 人のところ、毎回 200 人を超える応募がありました。１日教室（しかも無料！）という手軽さと、タイヤの空気圧など日常の点検方法などの指導付き、お土産ももらえるという内容。主催がディーラー（リビング京都は企画協力）なので、人気のハイブリッドカーにも試乗できる特典もよかったようです。各日曜開催で、夫に車で送ってもらう人が多く、ミセスは平日という図式を塗り替えたイベントです。

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪　兵庫

吉田三千代
大阪編集部長

地元企業×意外なお得！で 大阪ミセスが動いた

５月 25 日号で取り上げた「地元企業の工場直売」。地域住民へのサービスとして実施されているアウトレット食品販売を紹介しました。「地元にもこんな企業のサービスがあったんだ！と驚きの気持ちで読みました」など、読者からは高評価が続々。掲載した企業からも、「年末年始、お盆前のセールに次ぐほどの盛況ぶり。ほぼ売り切れ状態に」「電話での問い合わせが普段の２倍、売り上げは３倍だった」… 反響の大きさに驚きの声が。地元の意外なお得情報でミセスゴコロを刺激しました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世
編集部　副編集長

子育てに興味や関心の高い ママたちがたくさん

若いママたちをメインターゲットとしているリビング和歌山。2013 年３月には子育てや教育の情報を集めたキッズリビング特別版を発行。特集面ではキッズコーチングとして活躍する竹内エリカさんをインタビューし、トークショーとサイン会を企画。子育てに関心が高いママたちが 100 人近く集まりました。明るく元気に、のびのびと能力を伸ばせる子どもに―。そう願うママたちが熱心に耳を傾けていました。この後、リビングカルチャー倶楽部で竹内さんによるママコーチ養成講座も実施しました。

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路　加古川

北村智也
編集部長

本場ドイツのビール・グルメが大集合 姫路オクトーバーフェストへ行こう！

姫路で初開催のこのイベントは、10 日間で目標の３万人を上回る３万 4000 人の来場者を達成。リビング新聞の1・2面を使った特集と、クーポンを組み込んだ広告とで紙面展開したことや、リビング新聞社が主催に加わり、姫路市や姫路商工会議所の後援を得たこと。そしてNHK姫路放送局やJR西日本のお出かけサイトなどでの広報が奏効したと考えられる。他の会場と異なり、ステージイベントなども加えたことで女性や家族連れの参加が多かったのも動員数の増加に寄与したと思われます。

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま　くらしき

新山　錬
執行役員編集長

「食べてみられえ　岡山パクチー」 初試食会に100人を超える応募！

農家の高齢化が進む中、岡山市内の 20 ～ 40 代の農業青年が「岡山パクチー」の生産に力を入れています。「リビング新聞でも応援しよう！」と紙面で紹介し、同時に読者が無料参加できる「特別試食会」を企画。定員 20 人に対し、110 人もの申し込み。飲食店と JA パクチー部会の全面協力を得ての試食会は大好評。「パクチーは知っているけれど使い方がよく分からないから買わない」との声もある脇役食材ですが、参加者に感想を聞くと、20 人中 19 人が「試食会は役に立った」とうれしい回答を得ました。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

岡田千恵
編集部　編集長

卒業生は延べ3000人！ かかわることでリビングファンに

平成３年開講の「リビング女性ボウリング教室」の卒業生は延べ 3000 人。2014 年、100 回目を迎える人気の教室です。年齢層は幅広く、和気あいあいとした雰囲気。その秘密は、①定員 30 人で一体感が生まれる②初心者も楽しく体を動かせる③専門コーチが指導④最終日は賞品獲得のチャンスがある―こと。学びの中で友達づくり・楽しい・健康・お土産という女性の心を満たすキーワードを網羅。教室への参加がきっかけでリビングのファンになったという女性も多い教室です。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

松浦啓子
副編集長

〝私にできる！〟を棚卸し 自分発見セミナー

毎月、読者の女性を対象に「自分発見セミナー」を開催しています。能力や人脈などを講師のアドバイスに沿って書き出し、「自分の魅力の棚卸し」をします。毎回 10 人前後が参加し、「自信がついた」「世界が広がりそう」と好評。セミナーをきっかけに講師活動などを始めるなど、行動に移った人も出ています。また、同セミナーの講師にステップアップした人も。今後はイベントや表彰をかからませて、自己実現の場を提供していきます。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

石川恭子
編集部部長

子育て世代の“すき間時間”に注目 モーニング特集が大好評

ミセスがたまにゆったりと、といえば「友人とランチ」が浮かびますが、子育て世代には別のニーズもあるようで。
ランチだとつい長くなるけれど、子どもを送った後に楽しめるモーニングなら、ランチほど高くないし、昼から家事もできる―。そんな声に応えたのが４月 13 日号「モーニング特集」です。パンケーキ、パスタ、蕎麦…とバラエティー豊かに 14 店を掲載。お店からは「掲載後数カ月は満席」というお礼が、転勤ミセスからは「新しいお店が発見できた」と好評でした。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

小原明美
取締役編集長

リビング新聞だから…でつながる 消費者とクライアントの関係

消費者にとって産地詐称、誤表示など、見逃せない話題が多い中、数ある生活情報媒体の中でもリビング新聞は、信頼される情報媒体だと自負しています。
創刊以来、忠実に守ってきたリビング新聞の〝掲載基準〟。〝情報の伝え手であると共に消費者〟というスタンス。「リビング新聞だから大丈夫と思って申し込みました」と読者さん。「リビングさんは表現に厳しいけれど、広告を出す側としては安心」と、クライアントさん。この声こそが、リビング新聞そのものなのだと思うのです。

Kita Kyusyu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

奥永智絵
編集長

各媒体が競って実施のパンイベント リビングは量より希少性・質を重視

最近福岡市内では各情報誌だけでなく一般主婦団体までもパン屋さんを一堂に集めたイベントを仕掛ける「パン戦国時代」。一方、北九州市では唯一リビングがパンイベントを実施しており、開始1時間前から 100 人以上の列ができるほど盛況。出店者からは「リビングイベントは売り上げも良い」「進行がスムーズ」「出店者が 10 店と程よく、客が迷いすぎずに全店でも買い物が楽しめる」などの意見が聞かれました。出店数を競うのではなく、出店者＆顧客満足のバランスが評価に繋がると感じています。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

前田和美
編集長

パンを愛する主婦６人による パンを愛する主婦のためのイベント

パン好きの主婦６人があちこちでパンを買い歩き、「味はもちろん、愛がある」と感じた店に直接交渉し、出店してもらう「パンパラダイス」を 2012 年秋に実施。２日間で 3000 人が来場しました。2013 年９月にはリビング福岡が応援し、編集部ゆかりのパン屋さんも加え、特典なども付けてパワーアップ。5000 人以上を動員しました。主婦の力で行ったイベントという位置付け、読者と同じ立場からの口コミ的な展開がよかったのだと思います。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子
編集部　編集長

ペーパードライバーミニ講習に 約２ヵ月で60人が参加

熊本では今年度「はたらく女性応援プロジェクト」を進行中。その一環として、ペーパードライバー脱出のきっかけ作りを特集しました。私自身二十数年ぶりにハンドルを握り、実体験をレポート。さらに取材先の自動車学校に読者限定の「カウンセリング&お試し講習／3000 円」の設定を依頼。体験的なイベントでなく自分の都合に合わせて参加できるよう配慮。掲載後から申し込みが続きトータル 60 人に。再就職を目指す子育て世代から、親の通院などで運転が必須になったなど、幅広い層に反響がありました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子
編集長

小学5・6年生を対象にキャリア教育 「将来の夢が広がった」と大好評！

「子どもたちに働く素晴らしさを伝えたい」。その思いから初めて実施した「かごしま子ども夢大学」。小学５・６年生を対象に学生を募集したところ、定員 40 人をはるかに上回る 200 人以上の応募があり、読者の関心の高さがうかがえました。講座はコミュニケーション力を高めるワークショップ、働きマンへのインタビュー、職場体験など盛りだくさんの６日間。「子どもが仕事に興味を持ち、親子の会話が増えた」と大好評で、私たち大人が本気でキャリア教育に取り組む重要性を実感しました。

「くらし HOW マガジン」2014 年 1 月発行／©リビングくらし HOW 研究所　※無断転載を禁じます